「くまモン」のアクセントに関する調査報告

崔　　文姫

1．はじめに

熊本県を代表するキャラクターの「くまモン」をどのようなアクセントで発音するか、具体的に言うと、平板式アクセントと起伏式アクセントのどちらで発音するかということがテレビ番組などで話題となり、崔（2015）ではその「くまモン」のアクセントについて論じた。その中で、熊本県立大学の学生に協力を仰ぎ、熊本県および近県に住む人たちが「くまモン」をどのように発音するか小規模な調査を行なったことをその結果とともに簡単に報告した。本稿はその調査の詳細について記すものである。

2．調査の目的：何を明らかにするか

「くまモン」のアクセントについては少なくとも2通りの発音があり、平板式で発音する場合と「く」にアクセント核がある起伏式で発音する場合とがある。あるテレビ番組（2014年6月18日放送のTBS『水曜日のダウンタウン』）では、平板式アクセントが熊本でよく聞かれるという形で話が進められた[1]。それを見て著者は、本当に熊本に住む人たちが「くまモン」を平板式アクセントで発音する傾向があるのかを調べる必要があると感じた。なぜなら、熊本の地元のテレビ放送などを見ると、平板式アクセントで発音する人と起伏式アクセントで発音する人がいるからであった[2]。また、ネット上で閲覧可能な映像などを見ると、同じ人であってもどちらのアクセントパターンであるかが必ずしも一定しないこともあり、言語活動の実態について知る必要があると思ったからである。

そこで、大々的で本格的なものではなく予備調査的な形で調査を行なうことにした。調査は、熊本県立大学に通う学生たちに協力してもらう形で、熊本県（および近県：これは他県出身の学生がいるため）に在住する人たちが「くま

1　実際の話はもっと入り組んでいるが、それについては崔（2015）を参照されたい。
2　『水曜日のダウンタウン』ではテレビ局によってアクセントが異なるということに主に触れていた。

モン」をどのように発音するかに関して、年齢や性別などの観点からできるだけ広くデータを収集できるように心がけた。まず熊本県立大学の学生に対して著者が一人ずつ調査を行なった。そのあとで学生たちに、帰省する際などに家族や親戚、友人らを対象に独りで同様の調査をしてもらい、その結果を報告してもらうことにした。こうした調査が不慣れな学生でも無理なくできるよう、学生には事前に調査目的などを詳細に伝え、調査全般に関する十分な説明を行なった[3]。「くまモン」の実際の発音が平板式アクセントであるか起伏式アクセントであるかは学生でも比較的容易に判断できるため、収集するデータ自体はそれほど複雑なものではない[4]。だが、上で述べたように、一個人の中でアクセントパターンが異なる可能性もあるため、そうしたデータも同時に収集できるように工夫した。

調査方法で特に配慮したのは、話者が意識することなく「くまモン」のアクセントに関するデータを提供することであった。「観察者の逆説（observer's paradox）」という用語とともに知られていることだが、言語活動に関する最も信頼のおけるデータは、観察者がいない状況であり（東 2009: 59）、できるだけその状況に近づけるように考えた。言うまでもないが、一番やってはならないことは、話者（調査協力者）に対して「あなたは『くまモン』をどのように発音していますか」と聞くことである。自分の言語活動について人は想像以上に無意識・無感覚であり、著名な社会言語学者である井上史雄氏でさえ、自分がいわゆる「ラ抜きことば」を使っていたことを知って驚いたという逸話がある[5]。そこで、本調査においては、「くまモン」のアクセントを調べていること

3　学生自身が一度実際の調査に参加しているので、調査の手順や方法などは自然に理解できているはずだが、念のため、それらを細かく記入したシートを渡した。なお、無理に調査を頼むわけにはいかないので、できる範囲で調査に協力してくれるように依頼した。

4　分析においてアクセントの判断が難しい場合はその音声（録音データ）を著者に送るように事前に学生に頼んでおいたが、最終的に著者に送られてきた音声は1件もなかった。

5　少し長いが引用する。

> 筆者はラ抜きことばを使っていないつもりだった。相手につられて「見れる」と言いそうになっても、mir- のあたりでなんとか切り替えて areru を付けてごまかしていた。ところが、同僚が研究データとして録画した自分の講義のビデオテープをあとで見たら、なんと自分でも使っていた。講義のときは次に何をどう話すかを考えながらしゃべるので、自分の使っていることばのモニターが十分でなくなるらしい。「見れる」とはっきり言っていて、すっかり自信をなくした。そういえば、方言や俗語について意識調査で、自分で使っているのに、「使いますか」と問いただされると「使わない」と答える人がいる。方言調査で「のう」と言うかどうか聞かれて「「のう」なんて言わんのう」と答えるたぐいである。自分も同類とは思ってもみなかった。
> （井上 1998: 30-31）

が分からないように工夫を凝らした。

同時に、(多くの人には) 無償で調査に協力してもらうこともあり[6]、できるだけ短時間で調査が終了するような形にした。そうすることにより、多くの人を対象に調査を行なえると思ったからである。また、小さい子供からお年寄りまで幅広い年齢層のデータを収集したかったので、なるべく楽しめるような形で調査が行なえるように配慮した。

3. 調査の詳細

3.1 調査協力者および調査時期

調査は、2014年7月30日から同年8月29日にかけて行なった。調査時間は、一人当り3分～5分程度で、調査協力者は、最終的に106名であり、数名を除いて全員九州出身者（熊本県出身者[7]が主）であった。調査協力者の構成を表1と図1に示す[8]。

表1 調査協力者の構成

地域		熊本県	熊本県外	九州地方外	計
年齢		8歳～107歳	15歳～77歳	19歳～50歳	
性別	男	20名	8名	3名	31名 (29%)
	女	52名	20名	3名	75名 (71%)
計		72名 (68%)	28名 (26%)	6名 (6%)	106名 (100%)

6 本調査の終了後に、調査に協力してくれた熊本県立大学の学生には安価な謝礼品を渡した。

7 本稿での「熊本県出身者」とは、熊本県内で生まれ育った人およびこれまで一番長く居住した地域が熊本県内である人を指す。たとえば、他県で生まれ、幼少期に熊本県に引っ越し、熊本県で育った人は熊本県出身者に含める。また、熊本県立大学の学生には大学の入学に伴って県外から熊本県に引っ越した人もいるが、その人たちは熊本県出身者には含めない。

8 表1中にある「熊本県」とは「熊本県出身者」のことを指す。また、「熊本県外」とは熊本県以外の九州地方出身者のことを指し、内訳は、大分県10名・福岡県7名・鹿児島県7名・宮崎県2名・佐賀県1名・長崎県1名である。さらに「九州地方外」とは九州地方以外の出身者のことを指し、内訳は、大阪府3名・愛媛県1名・島根県1名・北海道1名である。今回の調査においては30代の協力者が一人もいない結果となったが（図1参照)、これは調査を依頼した学生が友人・親・祖父母などを主な対象としたためと考えられる。

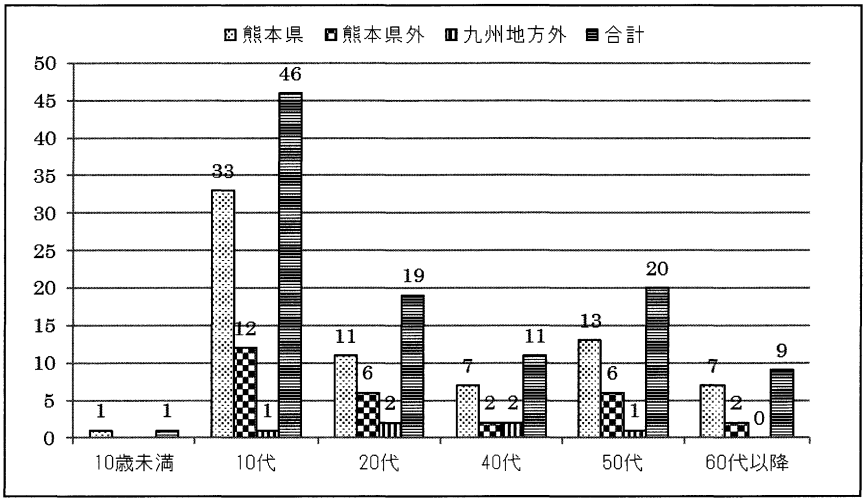

図 1 年齢別調査協力者の構成

3.2 調査材料

3.2.1 イラスト

この調査の目的は熊本県の人気キャラクターである「くまモン」のアクセントを観察することである。前述のとおり、このような調査においては、調査協力者に意識することなく発音（データ）を提供してもらうことが大切である。そのため、本調査では「くまモン」だけでなく、他のイラストを交えた調査用紙を準備し、調査協力者にそれぞれの名前を言ってもらうことにした。「くまモン」のアクセントを調査していることを意識させないためである。以下の表2に、調査に用いたイラスト（調査用紙の表）を示す[9]。

表 2 調査用紙（表）

①	②	③	④	⑤
スヌーピー	ドラえもん	くまモン	ピカチュウ	ふなっしー
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
犬	猫	熊	ネズミ	梨

9　調査において、イラストの提示順は表2のとおりだが、実際には文字でなくイラスト（絵）を用いた。

3.2.2 朗読文章

イラストに加え、「くまモン」という語が3回現れる文章を読んでもらい、その中で「くまモン」がどのように発音されるかを観察した。「くまモン」が複数回生起する文章を用いるのは、一個人の中で「くまモン」の発音にゆれがあるかを観察するためである。表3に、調査に用いた文章（調査用紙の裏）を示す。

表3 調査用紙（裏）

※次の文章をゆっくり大きな声で読んでください。 「ゆるキャラ」と言えば、熊本県のキャラクターの「くまモン」が有名です。「くまモン」を文字で書くときは、「くま」をひらがなで書いて、「モン」をカタカナで 書きます。 「くまモン」という名前は「くまもともん（熊本者）」から来ているそうですが、知っていましたか？

3.3 調査手順

調査は、質問者（調査者）が調査協力者に一人ずつ個別に行なった。質問者の指示に従って、調査協力者が答えていく形式である。以下に、調査の手順を記す。

① 単語レベルの調査（イラストを用いる調査）
本調査が言葉に関する簡単な調査であること、3分程度で終了すること、調査終了後に確認のため音声を録音することなどを質問者が調査協力者に伝え、許可（同意）を得る[10]。その後、「くまモン」の他にいろいろなイラストが描かれている調査用紙（3.2.1節参照）を見せながら、調査協力者にそれぞれの名前を言ってもらう。

② 文章レベルの調査（朗読文章を用いる調査）

10 本稿の調査は予備調査的な簡単なものであったため、調査協力者に対して（音声の録音や調査データを研究論文などに発表することについて）口頭で許可を取ることにした。アンケート調査を含む本格的な調査では、研究倫理の観点から、調査協力者に同意書（もしくは許諾書）を書いてもらうという手順を踏むのが理想である。

続いて、「くまモン」について書かれた文章（3.2.2 節参照）を朗読してもらい、これも録音する[11]。上記①でも同様だが、質問者は、調査の途中、相手（調査協力者）に答え（イラストの名前など）を絶対に教えてはならない。

③ ①と②の終了後、調査協力者に本調査の目的（「くまモン」の発音に関する調査であること）などを伝える。場合によっては調査者と調査協力者で「くまモン」の発音の録音データを確認してもよい。

まず、著者が調査者となり、熊本県立大学の学生 21 名を調査協力者として、上記の調査を一人ずつ行なった。これに加え、調査に参加した熊本県立大学の学生には、（帰省中などに）家族や親戚などに同様の調査を行なってもらいたいことを伝え、協力を仰いだ[12]。そのため、調査に必要な調査用紙（イラスト、朗読文章）をはじめ、調査者（となる学生）に必要なもの（質問者用のシート、分析内容、分析表、調査時の注意事項）[13]を渡して全般的な説明を詳細に行なった[14]。

4．分析

4.1 分析方法

調査者は、調査協力者の発音（録音データ）を確認しながら分析内容（別添 2）を分析表（別添 3）に記入する。著者は、調査者よりデータを受け取り、すべてのデータ（全協力者 106 名）をまとめたうえで、地域別・年代別・性別にどのような違いがあるかを分析する。

4.2 結果

4.2.1 「くまモン」のアクセント

表 1 に示したとおり、本調査の協力者は全部で 106 名であり、その内訳は熊

11 著者は IC レコーダーを用いて録音したが、IC レコーダーを持っていない学生には、（ほとんどの学生がスマートフォンを使っていたため）スマホに録音して発音を確認するように勧めた。

12 並行して、著者も知人ら数名を対象に同調査を行なった。

13 この 4 つの資料は別添として最後に示す。

14 すべての調査が同条件のもとで行われるよう、すなわち、質問者が誰であっても同様の結果が出るよう、調査の統制をするための配慮である。質問者の進行方法など、調査方法について細かく指示し、それらを文書にして学生に渡した。

本県出身者72名、熊本県以外の九州地方の出身者28名、九州地方以外の出身者6名となっている。すなわち、6名を除いた100名が九州地方出身者となる。調査協力者の「くまモン」の発音は、図2と図3に示すとおりである。

まず、①単語レベルの調査（イラスト）では、起伏式の頭高型（「く¬まモン」[15]）が93名（88%）、平板式（「くまモン→」）が10名（9%）、その他[16]（「くま¬モン」「くまモ¬ン」）が3名（3%）であった。すなわち、9割近くが「く¬まモン」で発音し、平板式は1割程度に過ぎないことが分かる（図2参照）。次に、②文章レベルの調査（朗読）では、文章内に3回現れる「くまモン」を、すべて「く¬まモン」で発音した人が87名（82%）、すべて「くまモン→」で発音した人が10名（9%）だった。さらに、残りの9名（9%）は2回を「く¬まモン」、1回を「くまモン→」と発音している[17]（図3参照）。

①単語レベルと②文章レベルの調査結果から、「くまモン」の平板式アクセントが少数派であることが分かる。以下では①と②から得られたデータを詳細に分析することにする。

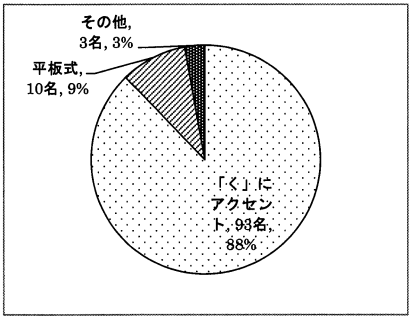

図2 「くまモン」のアクセント（全員）

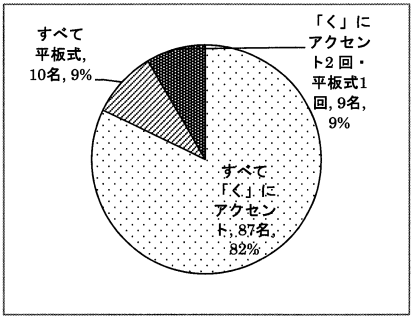

図3 3回の「くまモン」のアクセント（全員）

4.2.2 「くまモン」のアクセントに地域差はあるか

4.2.1節の結果から調査協力者は、「くまモン」を「く¬まモン」と発音する傾向が強いと結論づけられる。106名中72名を占める熊本県出身者だけの「く

15 本節以降、アクセント核がある直後に ¬ の記号を入れ（例：く¬まモン）、平板式アクセントの場合には語の最後に「→」を入れることとする（例：くまモン→）。また、そうした記号がない場合は特にアクセントを問題にしていないことを示す（例：くまモン）。
16 調査では「く¬まモン」か、「くまモン→」か、その他であるかを問題にしたため（別添2参照）、「くま¬モン」「くまモ¬ン」のどちらかは不明である。
17 このことは、個人の中で「くまモン」の発音にゆれがあることを示す。

まモン」のアクセントを観察すると、①単語レベルの調査では、頭高型（「くまモン」）が61名（85%）、平板式（「くまモン→」）が10名（14%）、その他が1名（1%）であった。すなわち、熊本県出身者の8割以上が「くまモン」で発音し、平板式は2割に満たないことが分かる。一方、この単語レベルに限ると、熊本県外や九州地方外の人たちに、「くまモン」を平板式（「くまモン→」）で発音する人は一人もいなかった（図4参照）。「くまモン」を平板式アクセントで発音する割合が全体と比べて熊本県出身者で高いことが分かる。

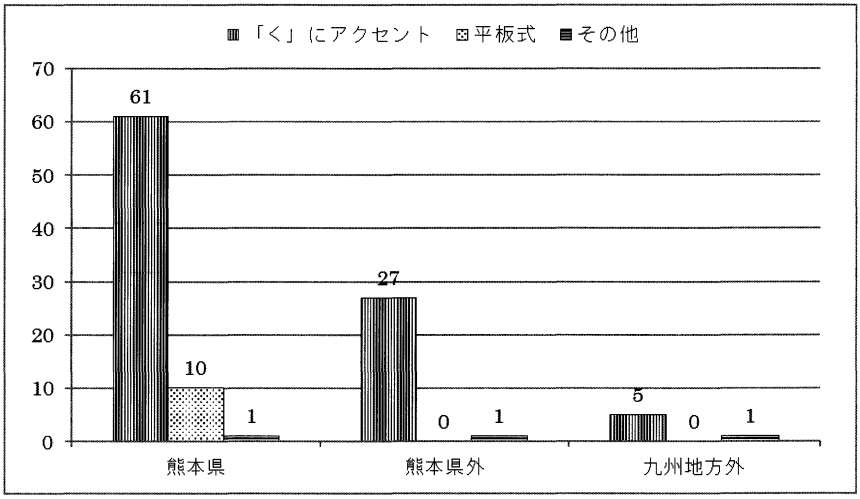

図4 ①単語レベルにおける「くまモン」のアクセント

次に、②文章レベルの調査（朗読）の結果を示すと図5のとおりである。

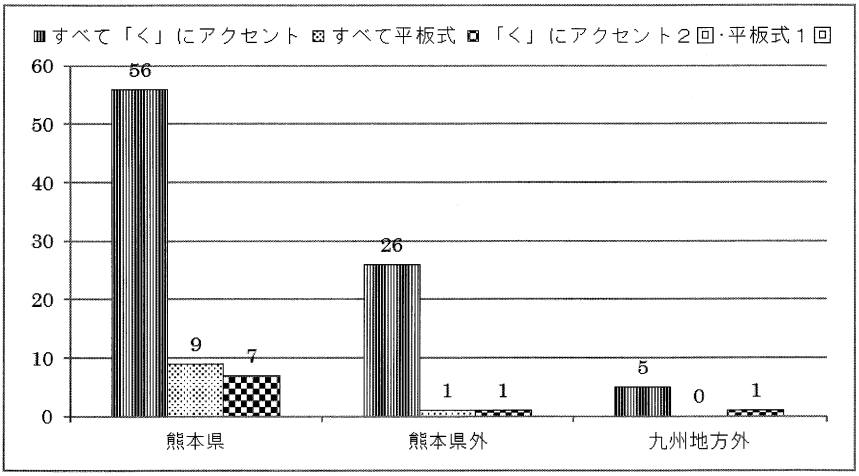

図５ ②文章レベルにおける３回の「くまモン」のアクセント

図５から分かるように、熊本県出身者は、文章中に３回現れる「くまモン」を、すべて「くㄱまモン」で発音する人が56名（78%）、すべて「くまモン→」で発音する人が９名（12%）だった。残りの７名（10%）は２回を「くㄱまモン」、１回を「くまモン→」と発音していた。最後の混在型は個人の中で「くまモン」のアクセントが不安定であること、すなわちゆれが起こっていることを示している。ちなみに、「くㄱまモン」１回、「くまモン→」２回の人は本調査を通じて１名もいなかった。熊本県外（九州地方）の人の中には、「くㄱまモン」３回が26名（93%）で、「くまモン→」３回と混在型がそれぞれ１名ずついた。九州地方外では、混在型の１名を除く５名が３回とも「くㄱまモン」で発音していた。

①単語レベルにおいて「くㄱまモン」と発音する人、②文章レベルにおいて３回とも「くㄱまモン」と発音する人の割合は、熊本県出身者が全調査協力者の平均よりも低いことが分かる（①については前者が85%で後者が88%、②については前者が78%で後者が82%）。これは熊本県出身者に平板式アクセントがより多く見られることの反映だと考えられる。

それでは、①単語レベルと②文章レベルを合わせるとどうなるか見てみよう。すべての調査協力者（106名）について、２つの調査の結果を合わせたも

のが表4である[18]。上で触れたが、②文章レベルの混在型は、「くㄱまモン」2回、「くまモン→」1回の場合のみであり、混在型は①単語レベルで「くㄱまモン」と発音した人にだけ見られた。

表4 両調査によるタイプ分け（全員）

①単語レベル	②文章レベル	人数	①+②合計	タイプ
起伏	起伏3平板0	80名	起伏4＞平板0	起伏
	起伏2平板1	9名	起伏3＞平板1	起伏
	起伏1平板2	0名		
	起伏0平板3	4名	起伏1＜平板3	平板
平板	起伏3平板0	4名	起伏3＞平板1	起伏
	起伏2平式1	0名		
	起伏1平板2	0名		
	起伏0平板3	6名	起伏0＜平板4	平板
その他	起伏3平板0	3名	起伏3＞平板0	起伏

表4から読み取れるのは、すべての人が「くㄱまモン」か「くまモン→」のどちらかで3回以上発音しているということである。（①単語レベルで「その他」の人はすべて②文章レベルで「くㄱまモン」の発音であった。）すると、それに基づいて、調査協力者を主に「くㄱまモン」で発音するか、「くまモン→」で発音するかに二分できる（表4の「タイプ」の列で示してある）。前者「起伏タイプ」は96名（91%）、後者「平板タイプ」は10名（9%）である[19]。次節の表5で示すように、熊本県出身者に限ると、「起伏タイプ」は87.5%、「平板タイプ」は12.5%であり、やはり熊本県出身者に平板式アクセントで発音する人の割合が高いことがうかがえる。

18　表4における「起伏」は「くㄱまモン」、「平板」は「くまモン→」を指す。

19　偶然かもしれないが興味深い結果である。仮に調査協力者にもう1回「くまモン」と発音してもらい計5回にしても同じ結果となる。また、①単語レベルと②文章レベルを通じて見た場合、混在したアクセントパターンで発音する人がかなりいることが分かる。すべてを通して「くㄱまモン」で発音する「純粋起伏タイプ」は80名（75%）、「純粋平板タイプ」は6名（6%）なので、「くまモン」のアクセントにゆれが見られるのは全体の4分の1程度にも達する。これらについては4.2.6節で取り上げる。

4.2.3 年配の人は「くまモン」を平板式で発音するのか

上で見た「起伏タイプ」と「平板タイプ」となる集団には何か特徴が見られるだろうか。「くまモン」を平板式アクセントで発音するのは熊本方言の場合、特に年配者の特徴であるという指摘があるので（崔 2015 を参照）、表 4 のデータを熊本県出身者に限定し、それぞれのタイプの年齢構成を見ることにする。

表 5 両調査によるタイプ分け（熊本県出身者）

①単語レベル	②文章レベル	人数	①＋②合計	タイプ
起伏	起伏 3 平板 0	51 名	起伏 4 ＞ 平板 0	起伏
	起伏 2 平板 1	7 名	起伏 3 ＞ 平板 1	起伏
	起伏 1 板式 2	0 名		
	起伏 0 平板 3	3 名	起伏 1 ＜ 平板 3	平板
平板	起伏 3 平板 0	4 名	起伏 3 ＞ 平板 1	起伏
	起伏 2 平板 1	0 名		
	起伏 1 平板 2	0 名		
	起伏 0 平板 3	6 名	起伏 0 ＜ 平板 4	平板
その他	起伏 3 平板 0	1 名	起伏 3 ＞ 平板 0	起伏

表 5 は熊本県出身者のデータだが、「起伏タイプ」が 63 名（87.5%）、「平板タイプ」が 9 名（12.5%）であり、前節で指摘したとおり、「平板タイプ」の割合が表 4 の全データよりやや高いことが分かる[20]。「起伏タイプ」と「平板タイプ」がそれぞれ年齢ごとにどのように構成されているかを示したのが以下の図 6 である。図 6 を見ると、「起伏タイプ」は年齢が上がるにつれて割合が下がり、「平板タイプ」はその逆になっているように見える。さらに、年齢層を 10 代以下、20 ～ 40 代、50 代以上を低年齢層、中年齢層、高年齢層の 3 つの集団に分け、それをグラフ化してみる（図 7）。すると、年齢層とアクセントに関係があることが見て取れる。すなわち、熊本県出身者の 50 代以上の人たちは 4 人に 1 人の割合（25%）で「平板タイプ」だが、10 代以下ではそれが 10 人

20　これらの結果からも、平板式アクセントの割合が高いのは熊本方言の特徴と言えるだろう。本調査は予備調査的な簡単な調査で終わっているので、今後は熊本県内の地域ごとの調査なども必要であろう。

に1人の割合にも達しないことが分かる。ここから「くまモン」を平板式アクセントで発音するのは年齢が高い人の特徴であると言える。とは言え、どの年代であっても半数以上が「起伏タイプ」なのが事実であり、年齢が高いからと言って「くまモン」を平板式アクセントで発音するわけではないことがデータから読み取れる。

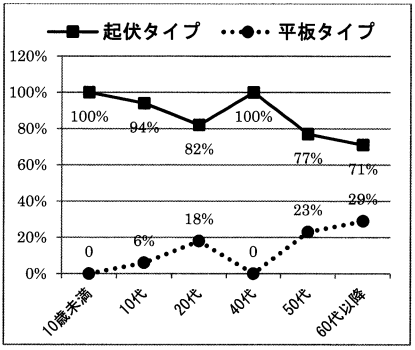

図6 年齢別タイプ(熊本県出身者)

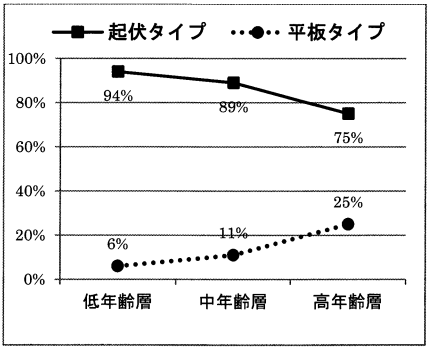

図7 3つの集団別タイプ(熊本県出身者)

参考までに、調査協力者全員に対し、「起伏タイプ」と「平板タイプ」がそれぞれ年齢ごとにどのように構成されているかを図8と図9として示す。全体における熊本県出身者の割合が高いこともあり、同様の結果となる。本調査における40代の11名(熊本県7名、熊本県外2名、九州地方外2名)はすべて「起伏タイプ」であったが、図7および図9から予測されるのは、現実には40代の100%が「起伏タイプ」ではなく「平板タイプ」もその年代には存在するだろうということである。40代に関する細かなデータを示すと、起伏4回が8名、起伏3回・平板1回が3名であった。4回のうち1回は平板式で発音している人が存在しており、40代でも平板式アクセントが出現することが分かる。したがって、図6および図8では40代がすべて「起伏タイプ」であると示されているが、これはすべてが「純粋起伏タイプ」ということを意味するものではない。図1に示したように、10代～60代以上において、40代の調査協力者の人数はやや少なく、もう少しサンプル数が増えれば40代にも「平板タイプ」の人が現れるだろう。加えて、本調査では30代の調査協力者が皆無だったが、本格的な調査であれば30代のデータは必要不可欠であり、本稿の結論はそうしたデータによって補強されるべきものである。

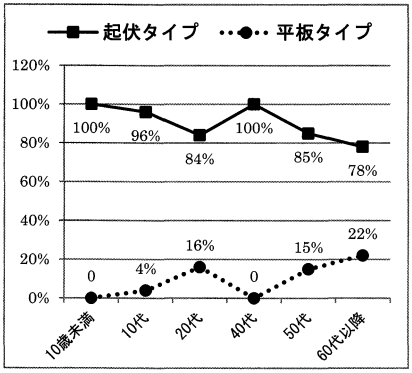

図8 年齢別タイプ（全員）

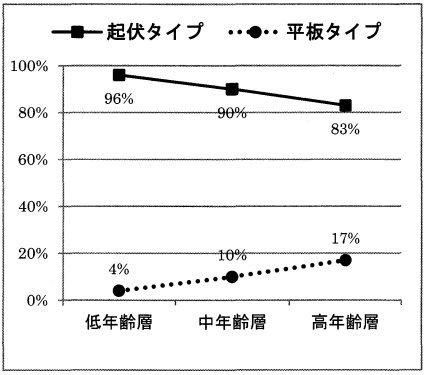

図9 3つの集団別タイプ（全員）

4.2.4 性別による違いはあるか

本稿の調査協力者（106名）は、男性31名、女性75名であった（表1参照）。「くまモン」の発音については、起伏式の「くㄱまモン」で発音すると可愛い感じが出るという感覚もあるので[21]、仮に女性のほうが男性よりも可愛さといったニュアンスに着目するようなことがあれば、それがアクセントの違いに現れる可能性も考えられる。本節では男女の違いについて見てみるが、結論を先に述べると性別について一般的な傾向を導くことはむずかしい。

まず、①単語レベルの調査では、男性の27名（87%）が起伏式の（「くㄱまモン」で発音し、3名（10%）が平板式の（「くまモン→」）、1名（3%）がその他で発音していた。一方、女性の場合は、66名（88%）が起伏式の（「くㄱまモン」）で発音し、7名（9%）が平板式の（「くまモン→」）で、2名（3%）がその他で発音していた。

次に、②文章レベルの調査（朗読）では、男性の場合、文章内に3回現れる「くまモン」を、すべて「くㄱまモン」で発音した人が27名（87%）、すべて「くまモン→」で発音した人が2名（6.5%）だった。さらに、残りの2名（6.5%）は2回を「くㄱまモン」、1回を「くまモン→」と発音していた。女性の場合は、すべて「くㄱまモン」で発音した人が60名（80%）、すべて「くま

21 本稿の最初で触れたテレビ番組で男性俳優がその旨の発言をしている（詳細は崔2015を参照）。また、その『水曜日のダウンタウン』を見ていた著者の友人（女性）も、「熊本ではみんな平板式で発音するの？」と著者に聞いており、「やっぱり、可愛いほうの発音（友人の中では「くㄱまモン」が可愛い発音となる）でいいよね～」とも言っていた。

モン→」で発音した人が8名（11%）、2回を「くーまモン」、1回を「くまモン→」と発音した人が7名（9%）だった。

また、①単語レベルと②文章レベルを合わせた場合、男性は「起伏タイプ」が94%（31名中29名）、「平板タイプ」が6%（31名中2名）であり、女性は「起伏タイプ」が89%（75名中67名）、「平板タイプ」が11%（75名中8名）であった。図10と図11に性別による「起伏タイプ」と「平板タイプ」の割合を示す[22]。

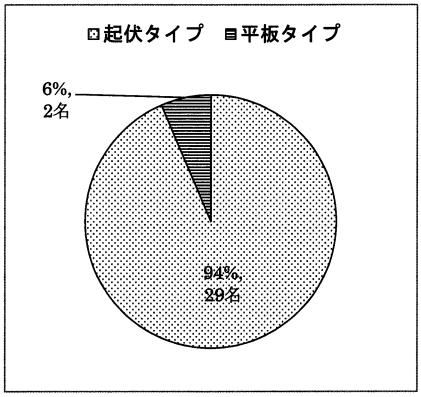

図10 タイプ別（男性）

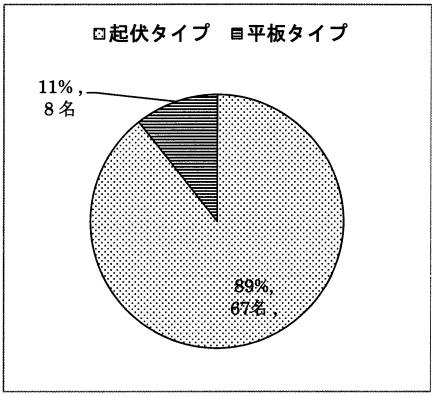

図11 タイプ別（女性）

男性の「起伏タイプ」は94%、女性のそれは89%であり、男性における割合が高い。まとめると、①単語レベルでは男女がほぼ同じ割合だが女性が少しだけ高く、②文章レベルでは男性が女性より高い。そして、①と②を合わせた場合も「起伏タイプ」は男性の割合が高い（図10と図11）。本調査の結果から見る限り、性別に関して何らかの傾向を述べるのは容易ではない。今回の調査協力者の男女の人数には大きく差があり、男女差を比較するためには、今後条件を揃えて更なる調査を行なう必要があるかもしれない。

4.2.5 「くまモン」のアクセントと「くま」のアクセントとの関連

本稿の調査においては、動物の「くま」のアクセントについても調べた（表

22 熊本県出身者（72名）に限定すると、男性は「起伏タイプ」が90%（20名中18名）、「平板タイプが」が10%（20名中2名）であり、女性は「起伏タイプ」が87%（52名中45名）、「平板タイプ」が13%（52名中7名）であった。

2の調査用紙のイラスト⑧および別添2の3)。これは「くまモン」のアクセントと「くま」のアクセントに何らかの関係があるか調べるためであった。例えば「くㄱまモン」と発音する人は「くまモン→」と発音する人よりも「くㄱま」と発音する割合が高いといったことがあるのか知りたかったからである。しかしながら、「起伏タイプ」と「平板タイプ」のそれぞれがどのように「くま」を発音するかを見ると、有意義な差はないと思われる。すなわち、すべての調査協力者を対象にするなら、「くま」を起伏式で発音した人の中で、「起伏タイプ」は92%（84名中77名)、「平板タイプ」は8%（84名中7名）であり、「くま」を平板式で発音した人のうち、「起伏タイプ」は86%（22名中19名)、「平板タイプ」は14%（22名中3名）であった（図12および図13参照）[23]。

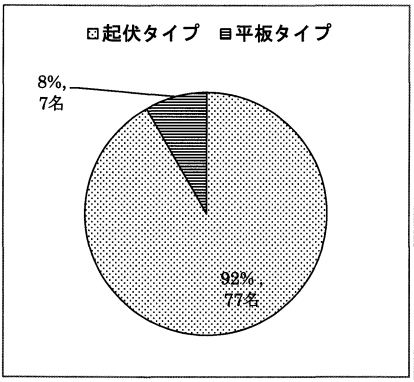

図12「くㄱま」とタイプ

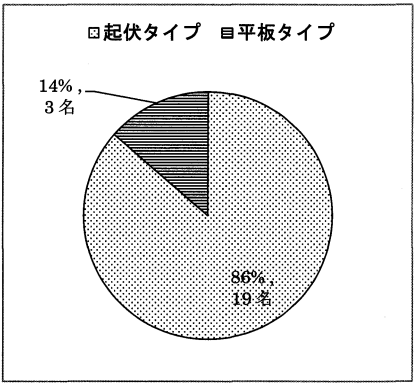

図13「くま→」とタイプ

また、逆に「くまモン」から「くま」への関係を見ると、「起伏タイプ」が起伏「くㄱま」で発音する割合は80%（96名中77名）であるのに対し、「平板タイプ」が「くㄱま」で発音する割合は70%（10名中7名）であり、強い相関はないと考える[24]。以上から、「くま」と「くまモン」のアクセントには（特に熊本県出身者において）相関がないと結論づけられる。

23　熊本県出身者（72名）に限定すると、「くま」を起伏式で発音した人のうち、「起伏タイプ」は87%（55名中48名)、「平板タイプ」は13%（55名中7名）であり、「くま」を平板式で発音した人のうち、「起伏タイプ」は88%（17名中15名)、「平板タイプ」は12%（17名中2名）であり、ほぼ同じ割合となる。

24　熊本県出身者の場合、「起伏タイプ」で「くㄱま」となるのは76%（63名中48名)、「平板タイプ」で「くㄱま」となるのは78%（9名中7名）であり、ほぼ同じ割合となる。

4.2.6　個人における「くまモン」の発音のゆれ

4.2.2 節で見たように、「くまモン」のアクセントが一定していない人がかなりの割合で見られた（「純粋起伏タイプ」あるいは「純粋平板タイプ」以外はすべて不安定と言える）。その逆の安定したアクセントで発音する人の数字を確認しておくと、調査協力者 106 名中、すべて「くマモン」と発音した「純粋起伏タイプ」は 80 名（75%）、すべて「くまモン→」と発音した「純粋平板タイプ」は 6 名（6%）であった。つまり、残りの 20 名（19%）のアクセントにゆれが見られた。同じ数字を熊本県出身者に限定して見ると、それぞれ 51 名（71%）、6 名（8%）、15 名（21%）となり、約 2 割にゆれが見られる。

ゆれと年齢との関係については、結論を述べておくと、有意義な関係は見られない。すべての調査協力者においてゆれが見られる割合は、10 歳未満が 100%（1 名中 1 名）、10 代が 15%（46 名中 7 名）、20 代が 21%（19 名中 4 名）、40 代が 27%（11 名中 3 名）、50 代が 20%（20 名中 4 名）、60 代以降は 11%（9 名中 1 名）である。3 つの年齢層に分けて見ても、低年齢層（10 代以下）が 17%、中年齢層（20 ～ 40 代）が 23%、高年齢層（50 代以上）が 17% となり、ゆれと年齢との間に明確な相関は見出せない。熊本県出身者 72 名に限定すると、10 歳未満が 100%（1 名中 1 名）、10 代が 18%（33 名中 6 名）、20 代が 9%（11 名中 1 名）、40 代が 29%（7 名中 2 名）、50 代が 31%（13 名中 4 名）、60 代以降は 14%（7 名中 1 名）であり、3 つの年齢層に分けても、低年齢層が 21%、中年齢層が 17%、高年齢層が 25% であり、相関は見られない。

ゆれと性別との関係についても有意義な関係は見られないと考えられる。男性は「純粋起伏タイプ」が 77%（31 名中 24 名）、「純粋平板タイプ」が 3%（1 名）なので、男性のゆれは 20% に見られることになる。対応する女性の数字はそれぞれ 75%（75 名中 56 名）、7%（5 名）、18% である。ゆれの割合は男性が 20%、女性が 18% なので、ほぼ同じと言えるだろう。熊本県出身者に限ると、男性の「純粋起伏タイプ」は 70%（20 名中 14 名）、「純粋平板タイプ」が 5%（1 名）なので、ゆれは 25% に見られることになる。女性はそれぞれ 71%（52 名中 37 名）、10%（5 名）、19% であり、ここでも男女差はないと考えたほうがよいだろう。

5．まとめ

本稿では、106 名を対象とした「くまモン」のアクセントに関する調査について報告し、その結果を分析した。まず、「くまモン」を「くマモン」と起

伏式アクセントで発音する人が少なくとも8割程度はおり、熊本県出身者は全体よりもややその割合が低く、平板式アクセントの割合がやや高いということを見た（4.2.2節）。そして、平板式アクセントによる「くまモン」の発音が年齢と関係しており、具体的には、高い年齢層のほうが「くまモン」を平板式アクセントで発音する割合が高いことを見た（4.2.3節）。一方、アクセントと性別については有意義な関係は見出せなかった（4.2.4節）。また、「くまモン」と動物の「くま」のアクセントの間にも有意義な関係はなかった（4.2.5節）。加えて、一個人が「くㄱまモン」とも「くまモン→」とも発音する割合が2割程度も見られるのは驚きであったが、このゆれは年齢や性別とは関係ないようである（4.2.6節）。

若い世代ほど「くㄱまモン」と発音する傾向が高いことから、将来的には「くまモン→」と平板式アクセントで発音する人の割合は低くなると予想される。その理由の一つとしては、現在「くまモン→」と平板式アクセントで発音する割合がやや高い世代（例えば図7の高年齢層；平板タイプは25%）が、時間の経過とともに、割合がそれよりも低い次の世代（平板タイプは11%）に取って代わられることが挙げられる。別の理由としては、先の理由から「くㄱまモン」の発音が段々と主流となっていくことにより、その影響を受けて平板式アクセントで発音していた人が（意識的・無意識的に）その発音をしなくなるといったことが考えられる。

本調査では調査協力者に「くまモン」を4回言ってもらうことになったが、その結果、「くまモン」のアクセントが一定していない話者が想像以上に多いことが分かった。これは話者に一度だけ「くまモン」と言ってもらう場合には得られない結果であり、アクセント調査においてはこうした点にも注意しなければならないと改めて考えさせられた。その一方、なぜゆれが見られるのかは不明である。①単語レベルと②文章レベルの違いによるのか、あるいは②文章レベルにおいて「くまモン」がどのような環境にあるかが関係するのか、それともそうした要因は無関係なのか、または熊本地域に全般的に見られる平板アクセントの傾向が何らかの形で影響を与えているのかなど、いくつかの可能性が考えられる。いずれにせよ、①単語レベルが「くㄱまモン」、②文章レベルの3回すべてが「くまモン→」であった人も存在し、その逆の人も存在したことは紛れもない事実である[25]。アクセントが地域や人によって異なる場合があ

25　さらに、①と②を合わせた場合、すべての人が（どちらかを3回以上発音する）「起伏タイプ」と「平板タイプ」に分類できたことは驚きである。

ることは改めて言うまでもないが、「デコポン」（「デコポン→」と「デ¬コポン」がある）や「ひこにゃん」（「ひ¬こにゃん」と「ひこ¬にゃん」がありそう）などについて、本稿と同様の調査をした場合、同じようなゆれが見られるのか興味深いところである。

今回の調査が予備調査的であることはすでに述べたが、今後同様の調査をするために気をつけるべきことを記しておこう。当初は100名を超える数の調査協力者を得られると思っていなかったのだが、最終的に予想を超える人数のデータを集めることができた。しかし、実際に分析をしてみると、協力者の中には30代の人がいないということが分かった。本稿の結論の一つは、「くまモン」の平板式アクセントによる発音は話者の年齢と相関関係があるということだが、その点ではすべての年齢層のデータがあるほうが好ましい。

「くまモン」のアクセントに関する著者の研究はあるテレビ番組が発端となった。その番組を見る限り、熊本県には「くまモン」を平板式アクセントで発音する人が多いという印象を与えるが、実際に調べた結果そのように言うのは乱暴であるように思われる。本調査は基本的に熊本県出身者に限られていると言えるが、平板式アクセントが優勢と言う結果にはならなかった。もちろん、他の地域を調査する必要があり、その結果、熊本県では「平板タイプ」の割合が他地域よりも多いということが分かるかもしれない。だが、本データから見る限り、優に半数以上は「起伏タイプ」であり、まずはそうした事実をしっかりと認識することが必要であろう。

本調査を通じて、人が自分の発音に対していかに無意識であるかを改めて感じさせられた。調査のあと、数人の学生と雑談をする中で、自分が平板式アクセントで「くまモン」を発音していることに驚いていた学生がいたことは印象的であった。

【付記】

「くまモン」のアクセントに関する調査においてご協力をいただいた熊本県立大学の学生および他の調査協力者のみなさまに、この場を借りて心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

【参考文献】

東 照二（2009）『社会言語学入門 生きた言葉のおもしろさに迫る（改訂版）』研究社.

井上史雄（1998）『日本語ウォッチング』岩波書店.

崔 文姫（2015）「くまモンを巡るアクセント騒動」『熊本県立大学文学部紀要』第21巻, 25-53.

【別添１】

＜質問者用＞；調査時に利用

１．最初に次を相手に言ってください。

これから簡単な質問やお願いをするので気楽に答えてください。３分間ほどで終わります。正しい答はないので、むずかしく考える必要はありません。年齢や性別によって違いがあるかを調べるための調査です。あとで結果を確かめるために録音させてもらいますが、よろしくお願いします。

２．許可が取れたら、録音開始。そして、次を相手に言ってください。

あなたの名前と性別と年齢を教えてください。また、どこで生まれてどこで育ったか教えてください。

本調査の結果を研究発表などに使うこともあり得ますが、その場合、個人名をデータとして発表することはありませんので、ご安心ください。

３．イラストの描いてある用紙をイラストを表にして相手に見せてください。そして、次を相手に言ってください。

このイラストを見てください。①番から⑩番までいろいろなイラストが描いてありますが、そのイラストの名前がわかりますか。

まず、①番は何ですか。［答］　②番は何ですか。［答］　③番は何ですか。［答］　④番は何ですか。［答］　⑤番は何ですか。［答］

では次に、⑥番から⑩番までのイラストをみてください。⑥番から⑩番のイラストは①番から⑤番に関連した動物や果物が描いてあります。それらの名前をひとつずつ言ってみてください。

⑥番は何ですか。［答］　⑦番は何ですか。［答］　⑧番は何ですか。［答］　⑨番は何ですか。［答］　⑩番は何ですか。［答］

４．用紙を裏にして文字が書いてある面を相手に見せてください。そして、次を相手に言ってください。

最後に、そこに書いてある文章をゆっくり大きな声で読んでください。［朗読］

これで調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

【別添２】

＜分析内容＞；調査終了後に

※音声の録音データを聞いて、以下の情報を報告してください。
（エクセルの表に記入してメールで送るか、手渡ししてください。）

１．質問をした相手の性別・年齢・その他の情報
　性別：(男・女)
　年齢：(　　) 歳
　出身地：(　　) 県　(　　)　※県名だけでもよい
　育った場所：主に (　　) 県　(　　)　※無記入可

イラストに対する反応

２．「くまモン」のアクセント
　①「く」にアクセントがあるパターン（「富士山」と同じパターン）
　②いわゆる平板式（「ケータイ」と同じパターン）
　③その他

３．「くま」のアクセント
　①「く」にアクセントがあるパターン（国名「チリ」と同じパターン）
　②「ま」にアクセントがあるパターン（焼肉の「タレ」や「栗」）
　③判断できない

朗読文章

４．朗読してもらった文章には「くまモン」が３回あらわれますが、そのアクセントは同じでしたか。
　① すべて同じで、すべて「く」にアクセント
　② すべて同じで、すべて平板式
　③「く」にアクセントが１回、平板式が２回
　④「く」にアクセントが２回、平板式が１回

５．「熊本県のキャラクター」の「キャラクター」のアクセントについて
　① 平板式（「ハーモニカ」と同じパターン）
　②「キャ」にアクセントがある（「ジャイアンツ」と同じ）
　③「ラ」にアクセントがある（「ナポリタン」と同じ）

【別添３】紙ベースで渡す方法とエクセルファイルをメールで送る方法を並行

＜分析表＞

報告者：

	調査日	名前	年齢	性別	出身地	育った場所	イラスト		朗読	
							「くまモン」のアクセント	「くま」のアクセント	3回の「くまモン」のアクセント	「キャラクター」のアクセント
記入例	8月1日	TN	48	女	天草市	熊本市	①	②	④	②
	8月2日	磯野カツオ	11	男	千葉県	東京	①	③	①	①
以下に記入										

【別添４】

＜（質問者の）調査時の注意事項＞

・「くまモン」のアクセントに関する調査であることを相手（質問される側）に言わない。
・複数の人に質問をするときは、離れた場所で一人ずつ行なう。
（調査予定の人に内容を知らせないため）
；全員の調査が終わってからみんなで話し合うのは構わない。
・質問者は、質問の途中、相手に答え（イラストの名前など）を教えない。
；時間が経過しても相手から「ピカチュウ」や「ふなっしー」などの名前が出て来ない場合は、次のイラストに移る。
・分析内容（用紙）を相手に見せない。

その他

※調査の対象（質問される人）は小学生からおばあちゃん、おじいちゃんまで、誰でも結構です。
※できればたくさんの人に質問してほしいですが、難しい場合は、2～3 人だけ（家族）でもお願いします。
※イラストにはたくさんの絵がありますが、分析対象は「くまモン」と「くま」のアクセントのみです。朗読文章でも「くまモン」と「キャラクター」のアクセントだけが分析対象になります。